

式 辞

本日、静岡県立大学、静岡県立大学短期大学部を卒業する学生諸君、そして大学院を修了される諸君、誠におめでとうございませう。来賓の皆様、本学教職員とともに、諸君の新たな旅立ちを心からお祝い申しあげます。あわせて、この日まで、学業を支えてくださった保護者の皆様、奨学金を提供してくださった各機関の皆様には、数々の厚いご支援に対して、心から御礼申し上げます。

さて皆さん、卒業に当たって私は一つの提案と、一つのお願いをさせていただきます。

提案とは PDCA サイクルの実践です。

PDCA サイクルという言葉をご存知でしょうか？P は Plan で計画、D は Do で実行、C は Check で点検・評価、そして A は Act で処置や新たな改善です。経営学の分野で生まれた言葉ですが、いまではどのような企てを行なうにあたって、それを成功に導くために必要な手続とされています。この方法を、ぜひ皆さんの人生の節目である今、自身の行動についても応用してみてはいかがでしょうか？

皆さんはどのような目的をもって入学したのでしょうか？そして、どのような学園生活を送ってきたのでしょうか？学業に励み、あるいは運動や文化活動に時間を割き、その合間にはアルバイトにもいそしんできたことと思います。しっかり勉強して、希望した資格を取った人もいるでしょう。またボランティア活動を通じて地域とのつながりを深め、あるいは留学・調査を通じて、国際社会とのつながりを深めた諸君も多いことと思います。皆さんのそれぞれの目的は、見事に達成されたのでしょうか？

これから始まる新しい人生へ第一歩を踏み出す前に、大学における成果を振り返っていただきたい。そしてこれからの人生をどのように送ろうとするのか、ぜひ新たな航海図を描いていただきたいと思います。

次にお願いがあります。皆さんがこれからの人生の航海図を描く上で、意識していただきたいことについてです。皆さんが直面する時代は、大きな変革の時代になるのだらうということです。皆さんには平均してあと 70 年くらいの人生が待っています。そのほとんどは、人口が減少していく時代になるはずで、経済がどうなるか予見はできません。しかし 20 世紀のような大きな経済成長が実現する可能性は低いと考えています。

それでは停滞的かつつまらない時代なのか。決してそうではありません。産業文

明が成熟していく社会には、これまでの経済成長がもたらした課題を克服しながら、よりよい社会に作り替えていく大きな問題が未解決のまま残されています。

国際連合は、昨年 9 月の総会において、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs) を採択しました。2030 年を目指して、人間、地球(環境)、繁栄(開発)、平和、連携のための行動計画として出されたものです。地球環境を良い状態に保ちつつ、人権、平和、豊かさを実現することが世界の課題とされたのです。

国内に目を向けるならば、「地方創生」が大きな問題になっています。人口減少が続く中で、いかにして豊かさや快適な生活を維持することができるかが問われています。国の内外を問わず、文明史的な課題の克服が求められている時代なのです。そんな状況のなかで、卒業される皆さんへの期待は非常に大きいです。そんなことができるはずがない、なんて考えないでください。「悲観は気分属し、楽観は意志に属す」という言葉があります。放っておけば事態はよくなりません。強い意志で、未来をこんなふうにしたいと目標に向かって努力するならば、皆さんの未来は明るく、輝いて見えてくることでしょう。

私は昨年の学長就任にさいして、どのような大学にしたいかと問われました。県立大学は、地域社会との協働、教育・研究の成果の地域への還元、静岡発の国際貢献を理念や目標として掲げています。木苗前学長は「個を拓(みが)き、強い絆で知を発信」を県立大学のモットーとして掲げました。そこで私はその精神を受け継いで、「地域をつくる、未来をつくる」ということを目標に掲げました。

昨年度に取り組みを始めた、文部科学省補助金による地の拠点事業、いわゆるCOC事業の「こころ・からだ・地域の健康を担う人材育成拠点」を県立大学に与えられた使命として強く推進していますが、その目的は一緒です。卒業したのちも、皆さんにはこの目標を一緒に追い求めていただきたいと思います。

結びにあたって皆さんにお伝えしたいことがあります。静岡県立大学、短期大学は、皆さんを世間に送り出す母なる学校(母校)です。そして大海に漕ぎ出した船を迎える母なる港(母港)でもあります。毎年、10月の剣祭、橘祭には、卒業生を迎えるホームカミングデーを開催しています。この日にはぜひ、キャンパスに戻ってきてください。

大学祭に限りません。いつでも結構です。もっと勉強がしたい、こんな技術を開発したい、仲間と交流したいなど、何でも結構です。私は県立大学の同窓会を、大学の一つの大きな資産として育てていきたいと願っています。ともに学び、議論し、技を競った仲間は、生涯の友となるでしょう。県立大学を学びの場として、ともに過ごした仲間が力を合わせて、「地域をつくる、未来をつくる」という時

平成 27 年度 学位記授与式

代の要請に応じていただきたいと思います。

皆さん、本日は誠にありがとうございます。未来をつくる皆さんの大海原への船出を、心からお祝いいたします。

静岡県立大学
静岡県立大学短期大学部
学長 鬼頭 宏